夏の花といえば『ひまわり』が思い浮かぶ方も多いと思われますが、今回は見頃を迎えた『北竜町ひまわりの里』へ行ってきました。

広大な丘の一面に約200万本のひまわり畑は圧巻のスケールでした。北海道らしい風景に魅了される方も多く、当日も沢山の観光客の方がいらしておりました。気温30度越えの炎天下だったため、楽しみにしていたひまわり迷路の散策は次回へ持ち越しとなりました。珍しい世界各国のひまわりを眺めながら食べる冷たいかき氷は格別でした。

こちらの北竜町ではレモンイエロー色の果肉の『ひまわりすいか』や『ひまわりメロン』など、ひまわりの名前に因んだ特産品もありますので、是非ご賞味くださいませ。

札幌営業所(所長:清水 壮次郎)

KOYORAD 70 Growing Together

世界の拠点から

-From the base in the world-

Vol.294 Aug.2026 KOYORAD

暑い日が続きますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか?水分補給を十分にして、この夏を乗り切りましょう！

さて話はガラっと変わり、昨年誕生した高市早苗総理大臣。高市総理は奈良県出身でクルマとバイクを愛する総理として有名。クルマに関してはスープラJZA70を22年間大切に乗り続け、どうしても処分できず、その後10年は登録抹消後不動車として保管されていたそうです。

まだ総理になる前の2022年に、元々の車両購入先であった奈良トヨタに保管されておりましたが、奈良トヨタが80周年記念事業としてST(高市氏のイニシャル)スープラ80レストアプロジェクトと銘打ちレストアを実施。現在は、奈良トヨタの『まほろばミュージアム』に2022年から展示されております。まほろばミュージアムは自動車の博物館ですが入場料は無料。協力金として任意で200円寄付ができます。寄付をして中に入ると高市総理のパネルとスープラがあります。キレイにレストアされたスープラは新車のごとく輝いており、とても旧車とは思えない。横には高市総理の街宣車Veanas号(ヴィーナス号ハイエース)があり、こちらはアルファベットの綴りが?と思っていたら、逆から読むとサナエVとなる様に考えられたとの事。他にもセリカリフトバック、S800やパブリカ、TE20系スプリンターなど名車がずらり。無料とは思えない見応えでした。奈良に立ち寄った際は、是非行ってみて下さい。

中日本営業所(部長:藤谷 弘行)

皆様いかがお過ごしでしょうか。今回は千葉県銚子市の犬吠埼(いぬぼうさき)を紹介いたします。

皆様も耳にする機会の多い地名で、よくご存じかと思います。関東平野の最東端に位置する太平洋に突き出た岬で、水郷筑波国定公園に含まれた景勝地です。また富士山のような高地や離島を除いた場合、国内で元旦の初日の出が1番早く拝める場所としても知られています。岬からの眺望は、太平洋を一望でき、あらためて地球が丸いことを実感できます。あいにく夕方ごろに行ったため、日の出を見ることはできていませんが、次の機会には初日の出を見られればと思っています。

また岬には太平洋に向かって、高さ約32mの犬吠埼灯台があります。開館時間は朝から夕方までと限られますが、こちらも見学することができます(タイミング悪く、今回私は見学できませんでした)。他にも、犬吠テラステラスという施設があり、食事・休憩をしたり、お土産を購入したりすることができます(私は有名な魚介類ではなく、安かったため地場のお米をお土産で買ってしまいました)。

皆様も、混み合うとは思いますが、初日の出を見に行かれてはいかがでしょうか。

東日本営業本部(部長:高橋 鉄夫)

先日、島根県出雲市を訪れる機会があり、日本を代表する神社の1つ『出雲大社』へ参詣しました。

出雲大社は、日本最古の歴史書とされる『古事記』にも登場する大国主大神を御祭神とする神社です。『縁結びの神様』として全国的に知られていますが、男女の縁だけではなく、人と人、仕事など、さまざまな良いご縁を結ぶ神様として広く信仰されています。出雲地方では旧暦10月を『神在月』と呼びます。一般的には『神無月』と呼ばれる10月ですが、全国の神々が出雲に集まるという言い伝えから、出雲では神様が『在る月』とされているそうです。出雲らしい興味深い文化です。

境内へ進むと、荘厳な雰囲気に包まれた御本殿が姿を現します。現在の御本殿は1744年に造営されたもので、高さは約24m。1952年には国宝に指定されています。かつての本殿は現在よりもさらに高く、古代には高さ約48mあったという伝承も残されており、その壮大さには驚かされます。そして出雲大社といえば、巨大なしめ縄を思い浮かべる方も多いのではないでしょうか。特に神楽殿の大しめ縄は、長さ約13m、重さ約5.2tにも及ぶ日本最大級のしめ縄で、実際に目の前にすると写真以上の迫力を感じます。

参拝方法にも特徴があります。一般的な神社では『二礼二拍手一礼』ですが、出雲大社では『二礼四拍手一礼』。独特の作法で参拝します。

島根県を訪れる機会がありましたら、ぜひ一度、神々の国・出雲の歴史と荘厳な空気を感じてみてはいかがでしょうか。

西日本営業所(部長:木下 敦裕)

インドネシアでは5～6年前から電気自動車(EV)が流行り始めています。EVはさまざまな国で生産されており、中国製、韓国製、日本製、ベトナム製、ヨーロッパ製などがありますが、一番売れているのはやはり中国製のEVです。中国製のEVにはBYD、Wuling、Chery、NETA、MG、AIONなどがあり、韓国製にはIONIQ、KONA、Kia EV3/EV6など、ベトナム製はVinFast、ヨーロッパ製はBMW、メルセデス・ベンツ、ボルボ、アウディ、フォルクスワーゲン、日本製はトヨタbZ4X、ホンダ Super-ONEなどがあります。

インドネシアでのマーケットシェアは圧倒的に中国製がトップで、統計的には約93%が中国製のEVです。その理由として一番考えられるのは価格の安さです。環境改善、特に大気汚染を少しでも削減したいというインドネシア政府の方針を実現するため、EVの税負担を軽減する政策が実施されています。

これがインドネシア人にとって魅力的で、結果的にEVの販売率は年々増加しています。世界のEV新車販売率の推移は、2018年：約2%、2020年：約5%、2024年：約22%、2025年：約25%となっています。

先日、BYD ATTO 3のエンジンルームを見る機会があったのですが、真っ先に気になったのはラジエーターでした。フロントのほうを覗いてみると、やはりラジエーターが付いて安心しました。

KJI(インドネシア)(工場長：S.Akhyar)

～今ではスーパースター～

日本では『寿司といえばマグロ！』というイメージが強いのですが、中国では王者マグロを押しのけて大人から子供まで幅広い人気を誇るのが三文魚(サーモン)です。

中華料理はもともと生ものを食べる習慣はありませんでしたが、沙拉(サラダ)もすっかりポピュラーになり、さらに日本食人気の高まりも手伝って刺身を食べることも一般的になりました。中華レストランで刺身を出すところも珍しくありません。日本の回転寿司チェーンも新店舗がオープンすると2時間待ちは当たり前なほどの盛況ぶりです。

そんなお刺身人気の中でサーモンは今ではスーパースターです。日本人も大好きなサーモンですが、中国でのサーモン人気には逆カルチャーショックを受けるほどです。理由はいろいろありますが、脂がのって食べやすいこと、健康志向に合うこと、そしてネット通販で冷凍配送しやすいことが大きな要因だといわれます。でもやっぱり美味しいからですかね。サーモン養殖で世界一を誇るノルウェーからの輸出は中国向けが近年急速に伸びており、年間5万トンを超える量が中国へやってきます。まだまだ三文魚の人気は高まりそうです。

KHE(中国・蘇州)(総経理：山本 博史)

～『安くて手軽』はもう昔?アメリカの外食事情～

ファストフードといえば、『安くて、早くて、手軽に食べられる』というイメージがありました。もちろん、特別すごく美味しい！というよりは(笑)、時間がない時などに気軽に食べられるのが良いところですよね。

そんなアメリカのファストフードですが、最近はまったく『安い』という感覚ではなくなってきました。例えば、マクドナルドのフィレオフィッシュのセット。2019年のパンデミック前は約7.54ドル(約856円)だったものが、2026年現在では約15.29ドル(約2,437円)。家族3人でそれぞれセットを1つずつ頼んだら、なんと約7,200円。ファストフードでこの金額…恐ろしいです(笑)。もちろん円安の影響もありますが、メニュー自体の価格もかなり上がっていて、今ではファストフードにも気軽に行けないようなアメリカになってきたな…と感じます。

イベント会場などに行くと、さらにびっくりします。先日のイベントでは、500mlほどのペットボトルのお水がなんと8ドル(約1,280円)。喉が渇いて水を1本買うだけでも、なかなかのお値段です(苦笑)。そう考えると、先日、日本で食べた1,000円の食事が本当に信じられないくらい安く感じます。日本の美味しい食事や飲み物が、ますます恋しくなります。

アメリカ生活では、もはや『自炊はマスト』と言っても過言ではない気がします。食材自体も決して安いわけではありませんが、外食するよりは安く、そして美味しく、健康的なものが食べられます。なので、お昼のお弁当を持ってくるのを忘れた日は…アウトですね(笑)。

いつかまた、『今日はファストフードでいいか！』と気軽に買える日が戻ってくるといいな～と思う今日この頃です。

KCS(アメリカ)(GM:Ayano Donnelly)

今やランニングは単なる運動ではなく、楽しみの要素も大きくなっています。人々はランニングを交流や楽しみを共有する機会として捉えており、それによってこのスポーツはより魅力的で、より多くの人々に親しまれるものとなっています。

子供を含むあらゆる年齢層に向けてランニングを普及させるために『テーマ・ランニング』という取り組みも行われています。8月には『スヌーピー・ラン』が開催され、11月には『ポケモン・ラン』が予定されています。参加者は2kmや4kmといったコースを選択でき、『スヌーピー・ラン』の参加費は78.88～128.88シンガポールドル(約9,900～16,000円)となっています。『ポケモン・ラン』は118シンガポールドル(約14,800円)～とさらに高額ですが、最近のポケモンの絶大な人気に加え、今年は30周年を迎えることもあり、大きなイベントになる可能性があります。

かつては単なる健康維持のための活動だったランニングは、健康的なライフスタイル、人との交流、そしてビジネスといったすべての要素が融合した活動へと変化しています。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

先日、ドイツ国境に近いナイメーヘンやドイツ・クレーヴェ周辺へマウンテンバイクアクティビティのために出かけました。そこは私たちが普段見慣れている風景とは全く異なっており、自宅から車でわずか45分の距離だったこともあって、翌日また同じエリアを訪れることにしました。今度はオープンカーで行き、周囲の景色をより一層楽しむことにしたのです。

丘陵地帯を抜けるドライブは実に快適で、森や美しい眺め、歴史ある村々、天候にも恵まれ最高でした。ドイツでは、オランダよりも燃料代が1ℓあたり約45セント安いため、給油も済ませました。浮いたお金を使って、森に囲まれたゴルフコースを一望できる場所で美味しいランチを楽しみました。

ほんの少し移動するだけでも、場所の雰囲気がこれほどまでに変わるものかと時々驚かされることがあります。私たちはこのドライブを心から楽しみました。ただリラックスして人生を謳歌するために、間違いなくまたこの場所を訪れることになるでしょう。

KIO(オランダ)(Ferri Visser)